



## 「白兔」のご縁プロジェクト～「地域の学校」として歩む、共生社会の実現に向けて～

▶▶ キーワード 文化財・企業・団体 等、地域イベント

### 取組概要

全国的な知名度を誇る「白兔」の名称を活用して、地域学校協働活動を推進。スタンプラリーや製品販売、地引網体験などの活動を通じ、特別支援教育への理解・啓発と児童生徒の社会参画を進めるプロジェクト。

### 活動の詳細・ポイント

#### 経緯

- 元々末恒地区との交流はあったが、より広く一般の方々に学校の存在を知ってもらい、障がいのある子どもたちへの理解を深めたいという想いがあった。
- 生徒の制作物等を、真に良い物として正当に評価される「ブランド」として確立させたかった。
- 周辺には多くの観光客が「ご縁」を求めて訪れる白兔神社があり、「白兔」をキーワードにした地域連携は発信力が高いと考えていた。

#### 活動内容

- 「バディアート」によるブランド化  
プロのアーティストの協力を得て、生徒たちが発案したデザインを「バディアート」としてロゴマーク化。ロゴマークを生徒が制作した製品に付与し、販売活動を行った。
- 白兔のご縁スタンプラリー  
白兔神社、道の駅、公民館、養護学校にスタンプ台を設置して実施。学校を設置場所とすることで、県内外の方が学校に足を運ぶきっかけを作った。
- 白兔海岸での地引網  
地域住民と協力して実施する地引網体験を地域学校協働活動推進員がコーディネート。生徒たちは「地引網音頭」を作成。  
※令和7年度は、地引網体験は悪天候のため急遽中止。



来場者に配るカード



### ● 成果・効果

- ・児童生徒が、海や神社といった、地域の教材に触れることで、自分たちのふるさとの理解と愛着が深まった。
- ・スタンプラリーには県内外から79名が参加。多様な方々が来校することで、特別支援教育を啓発する機会となった。
- ・自分たちのデザインや製品が「白兔ブランド」として地域展開される足がかりとなった。

### ● 関係者の声（教職員）

- ・地域資源を教材とするとき、地域の方と協力することは、とても有意義だと感じている。
- ・障がいのある子どもたちへの理解が更に深まって欲しい。
- ・白兔養護学校の考える「地域」は日本全体。それくらいのブランドにこの学校がなっていけばよいと思う。

### ● 活動データ

関係者：児童生徒、教職員、地域施設、地域住民、地域学校協働活動推進員